

京都バス株式会社

例年、多くの観光客が訪れる秋の紅葉シーズン(11月)において、市内中心部の移動については地下鉄への転換を促す取組を行うことで、バス運行の渋滞回避のみならず、当該地域の渋滞緩和が図られ、バス車両の燃費改善及び地域の環境負荷の低減に大きな成果を出している。

取組内容・効果

これを実現する取組として、京都駅から国際会館駅までは地下鉄を利用するよう積極的な周知につとめ、バスの利用を国際会館前から案内することや、例年実施していた京都駅～大原間の臨時便を抑制し、国際会館前～大原間の輸送力を強化したことにより、令和元年は約3%、令和2年は約4%車両燃費を改善した。(平成30年同月比)本取組は今後とも継続して実施する計画としている。

さらに本取組のほか、ハイブリッド車両の継続的な導入も進め、令和3年1月現在で全9両保有。(保有車両数:111両)

今後についても、ハイブリッド車両等の電動車両を順次導入する方針としている。

当該取組については、昨年12月、京都市より「京都市事業者排出量削減計画書制度における特別優良事業者表彰」を受表彰した。

大原地域における移動経路の分散化



京都市交通局と連携し様々な方法により周知



その他の周知方法

- ☑京都市交通局、京都バス双方のホームページや立て看板により案内
- ☑京都バス係員、京都市バスおもてなしコンシェルジュより、京都駅等のバスのりばにて利用客に対し直接に案内

※京都市バスおもてなしコンシェルジュ
京都市交通局協力会の職員と、留学生を含む、語学に堪能な京都市内の大学生スタッフが中心となり、京都駅や市内の観光地等で案内業務に従事

◆1日あたり運行便数 (1往復=2回)		土曜日			休日		
		H30年	R元年	R2年	H30年	R元年	R2年
京都駅	シーズン前	54	54	50	53	53	51
	～大原 シーズン中	88	54	50	87	53	51
国際会館	シーズン前	48	48	53	44	44	51
	～大原 シーズン中	55	96	77	51	92	75

ポイント

取組の結果、令和元年からは、例年実施していた京都駅～大原間の臨時便を抑制し、国際会館前～大原間の輸送力を強化